

平成30年6月1日
横浜幸銀信用組合

第6回経営諮問会議の概要について

当信用組合は、理事会の諮問機関として、外部有識者から構成される「経営諮問会議」を設置いたしました。本会議は、外部有識者より経営全般について助言・提言をいただき、これを経営に反映させることにより、経営の客観性・透明性を確保し、コーポレート・ガバナンスを強化することを目的とし、平成26年12月2日に第一回経営諮問会議を開催、以後半期に一度の周期で「経営諮問会議」を開催しております。

平成30年2月6日（木）、「第6回経営諮問会議」を開催いたしましたので、その概要につきまして、下記のとおりご報告させていただきます。

記

1、日 時

平成30年2月6日（木） 16:00～17:30

2、場 所

横浜幸銀信用組合福岡営業部8階大会議室

3、出席者

(経営諮問委員) <敬称略>

長谷川 勉	(日本大学商学部商業学科 教授)
後 宏治	(公認会計士 税理士)
佐藤 明夫	(弁護士)
川上 陸司	(経営コンサルタント)

(横浜幸銀信用組合)

呉 龍夫	(理事長)
溝江 雅夫	(副理事長)
齊藤 智成	(専務理事)
藤田 敬二	(専務理事)
有川 繁雄	(常務理事)
田中 昭彦	(常務理事)

池野 和己	(常務理事)
安田 浩	(常勤理事)
金 忠善	(常勤理事)
土井 真一郎	(常勤理事)

4、呉理事長挨拶要旨

平成29年3月に旧九州幸銀信用組合と合併し、横浜幸銀信用組合としてスタートをし、同年11月には旧信用組合岡山商銀と合併し、資金量や組織的に大きくなったが、ガバナンス等態勢整備をしている最中であり、本日委員の皆様方からご質問、ご意見を頂戴し、今後の経営に活かしてまいりたいとの挨拶を行いました。

5、当組合からの説明要旨

- ・合併後の組合の現状報告
- ・平成29年9月期仮決算報告
- ・平成30年3月期決算見通し

6、意見交換

出席者から以下のご意見、ご提言を頂きました。

- 取引先の経営支援は、収益性の改善まで踏み込んだ企業再生に注力すべき。
- 債務者区分のアップには限界があるので、サービサー等の活用も検討すべき。
- 営業地域が離れ、かつ合併後はコストが高くなるので、経費の削減、資金調達コストの引下げ等コスト管理の見直しを進めるべき。
- 自己資本比率の維持の意識を持つべき。
- 遊技業は、遊技人口が減少して、厳しい業態とは承知しているが、外部コンサルタントを活用する等顧客再生への取組みも検討すべき。
- 自己資本は、中長期的に出資増強をする必要があるのではないか。
- 地銀等は、貸出金を生業とした金融ビジネスへの危機感が高く、コンサルティングサービスを始めている。10年後、20年後を見据え、コンサルティングサービスを検討すべき。

(2) 組合からの回答

本日は貴重なご意見を頂きまして誠にありがとうございました。

本日頂いた貴重なご意見・アドバイスを内部で検討し、取引先への綿密なフォローアップと営業面での情報の集約の徹底、そして、お客様から安心できるとの評価を得られるような組合を目指し、今後の具体的な戦略、施策に繋げて参りたいと存じます。今後とも委員の皆様のご支援・ご指導を賜りますよう、よろしくお願い致します。本日は、長

時間に亘り、有難うございました。

以上